

高齢者医療費2倍化に怒り

菅田公政権が狙う75歳以上の医療費窓口負担2倍化法案。低い年金で厳しい生活を迫られています。高齢者をさらに窮地へと追い込みます。健康と命を守るために廃案を求める声が広がっています。

(新井水和)

埼玉県新座市の朝妻幸平さん(79)は、妻(73)と息子の3人で暮らしています。収入は年金で夫婦合わせ約400万円です。2倍化法案の対象には、単身で200万円以上複数世帯で75歳以上の人の収入合計が3320万円以上です。同法が施行されれば、朝妻さんは医療費が倍になってしまいます。(注)

慢性疾患14種

朝妻さんは糖尿病を患つており、これまで心筋梗塞や白内障の手術をしました。現役時代は腰を痛め、



1日の薬を前に「(2倍化したら)安心して病院に行けない」と話す朝妻さん＝埼玉県新座市

注 政府は2022年度後半から導入を狙います。負担増を抑えるとして「配慮措置」を3年間設けますが、それでも1人当たり年平均2万6千円の負担増になります。

しわく上削れよい

幼い頃かかった中耳炎で右耳には補聴器が欠かせません。現在は内科、眼科、耳鼻科、整形外科に通っています。

1日も服用する薬は14種類。「整形外科の薬をのまないと歩けなくなっているわけではないんですけどね。毎日をききないと見えなくなる。好き」のんびり、病院に通つたりしているわけではないと歩けなくなっています。慢性疾患があると「病院に行かない」という選択肢がないんです。

朝妻さんは机に並べられた薬をじっと見つめます。

現役時代は腰を痛め、

廃案で命・健康を守る

のなかでも、年末年始の家族旅行を楽しみにしていました。「今は旅行に行べ余裕がないですね。食生活に気をつけ、健康を維持するために趣味を散歩しています。これまで削る今の政府だと約10万円の医療費負担があります。それが2倍になります。それが2倍になれば…。「安心して病院へ行けません。通院を減らせば病気が悪化します」と懸念します。

ますます医療費がかかたり、手遅れになつたりするのではないかでしょか。結果的に国の財政を圧迫してしまつと思います」と懸念します。

現役世代、だしに

東京都練馬区に住む比留間長一さん(89)は定年まで印刷会社で働き、年金は夫婦合わせ3320万円を超えます。妻(86)と息子と生活し、毎朝のラジオ体操と散歩、読書が日課。朝食作りもこなし、大きな病気もせず、不自由なく暮りじてきました。ところが昨年、自転車で転倒してしまい、腰の

菅政権は現役世代との「負担の公平化」、「現役世代の負担軽減」と口実を並べます。しかし現役世代もいざれば年をひくうえに、すでに親の医療費を肩代わりしている人も少なくありません。

全国保健医団体連合会の住江憲男会長は「現在の1割負担でさしかかる年収に占める割合は現役世代の2.5~6倍」と指摘。2倍化した後の現役世代の個人の負担は一人あたり月30円ほどしか軽減されない」とについて、「現役世代」をだしに「公費負担軽減」を行おうとしている」と批判しています。